



STUDENTS' COURSE.

DESPATCHES.

VOL. II

(2ND COPY.)

特 別  
カ5  
6005  
3

BRITISH EMBASSY,

TOKYO.

APRIL 1921.



3



3  
75  
6005  
3



一

以書翰致啟上候陳者今般濠太利博物  
 館ニ於テ世界各国ノ貨幣ヲ陳列スル  
 ノ計畫有之候ニ付テハ我政府ヨリ本  
 邦貨幣ノ見本ヲ寄贈候様希望ノ旨同  
 博物館書記ヨリ在東京貴國副領事へ  
 申出候件ニ付客年十二月二十九日附  
 ヲ以テ御申越ノ趣了承致候右ハ早速  
 大藏大臣へ及照會候處同省ニハ寄贈  
 スヘキ貨幣無之ハ遺憾依頼ニ應シ難  
 キ旨同大臣ヨリ回答有之候間其旨同

英國大使官

STUDENTS ARE REQUESTED NOT  
 TO MAKE PENCIL OR OTHER MARKS  
 ON THE JAPANESE TEXT.

博物館書記へ通達方可然御取計相成  
度此段回答旁本大臣ハ茲ニ閣下ニ向  
テ重テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十年二月二十四日

外務大臣伯爵大隈重信

大不列顛特命全權公使

サー・アーネスト・メーソン・サトウ閣下

第二

以書翰致啟上候陳者鑛物鑛業ニ關ス  
ル統計年表及年報等貴我兩國當該官  
廳間ニ於テ直接交換方ノ義ニ付本月  
十六日附第十四號貴翰ヲ以テ御來示  
ノ趣致閱悉候右ハ早速農商務大臣へ  
致照會置候處右交換ノ義ハ至極御同  
意ニ有之候ニ付右等書類印行ノ都度  
農商務省鑛山局ヨリ直接送付方取計  
可申ニ付テハ之ヲ送付スヘキ貴國官  
廳ノ名稱及其所在地等豫メ御通知ニ

預リ度又當方ニテ印行ノ右書類ハ總  
テ日本文ニ有之候間是亦御承知置相  
成度旨今般同大臣ヨリ回答有之候ニ  
付右貴國官廳ノ名稱及其所在地等御  
通知相成候様致希望候右回答旁本大  
臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ  
候敬具

明治三十年三月二十九日外務大臣伯爵大隈重信  
大不列顛特命全權公使

サーアーネスト・メーソン・サトウ閣下

第三

日本國皇帝陛下ノ外務大臣ハ本月一  
日英國特命全權公使閣下ヨリ手交セ  
ラレタル日英兩國間領事職務條約締  
結ノ提議ニ關スル口上書ヲ接閲セリ  
帝國政府ハ欣然英國政府ノ希望ニ應  
シ日英兩國領事官ヲシテ各本國ノ船  
長ト船員トノ間ニ於ケル紛議ヲ處理  
スルノ權限ヲ有セシムルコト及談領  
事官ヲシテ日英兩國臣民ノ死亡者ノ  
遺產相續ニ關スル事項ヲ管轄スル裁

判所ニ於テ右死七者ノ遺囑管財人又ハ選定管財人ヲ代表セシムルコト等ノ規定ヲ含有スル所ノ兩國間領事ノ職務條約ヲ締結スルコトニ同意ス因テ外務大臣ハ何時ニテモ英國公使閣下ト本件ニ關スル商議ヲ開始スヘシ明治三十年四月十七日

東京外務省ニテ

第四

以書翰致啟上候陳者臺灣ニ於テ「ト」ト發生傳播ノ虞アルニ付同地ヨリ直接又ハ間接ニ來ル船舶ニ對シテ明治二十七年五月勅令第五十六號ニ據リ檢疫實施ノ義ヲ帝國政府ニ於テ必要ト認定シ別紙ノ通本日ヲ以テ内務大臣ヨリ告示相成候就テハ本件ハ内外國人民保護ノ為メ緊急ノ事柄ニ付去ル二十七年六月十六日附ヲ以テ申進置候趣旨ニ基キ貴國船舶並ニ人民ニ

於テ之ヲ遵守致候様至急御取計相成  
度此段及御依頼候本大臣ハ茲ニ重テ  
閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十年五月五日

外務大臣伯爵大隈重信

大不列顛特命全權公使

サー、アーネスト、メーソン、サウ、閣下

内務省告示第三十七號

臺灣ニ於ケル「ペスト」傳播ノ兆アルニ  
付同地ヲ發シ又ハ同地ヲ經及ヒ同地  
ヲ發シ他港ヲ經テ來ル船舶ニ對シ左  
ノ諸港ニ於テ明治二十七年五月勅令  
第五十六號ニ依リ五月五日ヨリ檢疫  
ヲ實施ス

兵庫縣神戸港

長崎縣長崎港

山口縣下関港

福岡縣門司港

廣島縣宇品港

熊本縣三角港

鹿兒島縣鹿兒島港 沖繩縣那霸港

長崎下ノ関神戸三港ヲ除ク他ノ諸港

ニ来ル船舶ニ對シ消毒ヲ要スルトキ

ハ最寄検査所ニ回航セシム

明治三十年五月五日

内務大臣伯爵樺山資紀

内務省告示第三十八號

本年内務省告示第三十七號ニヨリ檢

査ヲ受クヘキ船舶ニシテ神戸港ニ航

行スルモノハ兵庫縣和田岬ニ寄停シ

検査官ノ検査ヲ受クヘシ

明治三十年五月五日

内務大臣伯爵樺山資紀

第五

以書翰致啟上候陳者貴國

皇帝陛下即位六十年祝典ニ際シ觀艦  
 式御舉行ニ付若シ帝國政府ニ於テ將  
 官旗ヲ掲ケタル軍艦派遣相成候ハ  
 貴國政府ハ満足歡迎可被成旨帝國政  
 府へ通知可致様貴國外務大臣閣下ヨ  
 リ訓令ニ接セラレ候趣去ル四日附貴  
 翰ヲ以テ貴公使閣下ヨリ御申越ノ趣  
 致承知候右ハ早速海軍大臣へ及移牒  
 候處目下貴國ニ於テ製造中ノ軍艦工



事都合取調候處今日ノ見込ニテハ右  
御祝典ノ期迄ニハ富士竣工可致趣ニ  
付帝國政府ニ於テハ該艦一隻參列可  
為致旨同大臣ヨリ回答有之候間右ノ  
趣貴國政府へ可然御通知相成度此段  
回答旁本大臣ハ茲ニ重テ貴下ニ向テ  
敬意ヲ表シ候敬具

明治三十年五月二十九日外務大臣伯爵大隈重信  
大不列顛臨時代理公使

セラルド、ラウサー貴下

第六

以書翰致啟上候陳者帝國軍艦大島先  
般漢口碇泊中錨ヲ流失シ船体ヲ毀損  
シ困難ヲ極メタル際及該艦漢口ヨリ  
上海へ下航スルニ當リ殆ト危險ニ瀕  
シタル折柄在漢口貴國領事館ニ於テ  
特ニ貴國軍艦用ノ錨一挺ヲ貸與セラ  
レタル為メ該艦ハ安全ニ回航スルコ  
トヲ得タル由右ハ全ク同領事ノ好意  
ニ基因シタルモノナルニ付之ニ對シ  
深厚ノ謝意ヲ表シ度旨海軍大臣ヨリ

申越候間右ノ趣貴下ヨリ全官へ可然  
御傳達相成度致希望候右様同領事力  
友誼上懇篤ナル取計ニ出テラレシハ  
帝國政府ニ於テ深ク満足スル處ニ有  
之候右御依頼旁本大臣ハ茲ニ重テ貴  
下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十年八月三十日外務大臣伯爵大隈重信

大不列顛臨時代理公使

ゼラルド、ラウザー貴下

第七

以書翰致啟上候陳者來年一月二十二  
日ノ日蝕皆既觀測ノ為メ帝國政府ヨ  
リ東京天文臺長東京帝國大學理科大  
學教授理學博士寺尾壽及同教授平山  
信、兩名ヲ印度孟買近傍へ派遣スル  
コトニ相成來ル十一月中當地出発ノ  
筈ニ有之候ニ付テハ同官等同地到着  
ノ上ハ印度政廳ニ於テ必要ナル便宜  
ヲ與ヘラレ且觀測器械等無稅通關ヲ  
許可セラレ候様可然御盡力相成度致

希望候右御依頼旁本大臣ハ茲ニ重テ  
貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十年十月二十二日

外務大臣伯爵大隈重信

大不列顛臨時代理公使

ゼラルド、ラウサー、貴下

第八

以書翰致啟上候陳者三月二十八日附  
貴翰ヲ以テ今般貴國政府ニ於テ樞密  
院令ヲ以テ千八百九十四年商船令第  
二百三十八條ノ適用ヲ本邦船舶脱走  
海員ニ及ホスヘキ旨公布相成候由右  
樞密院令六通相添御通牒ノ趣了承致  
候尚ホ帝國ニ於テモ帝國版圖内ニ於  
テ貴國商船ヨリ脱船者アル場合ニハ  
從來ノ通其向ノ請求ニ應シ逮捕引渡  
ノ處分ヲ執行スヘキハ更ニ茲ニ明言

スル所ニ有之候此段回答旁本大臣ハ  
茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬  
具

明治三十一年四月十三日

外務大臣男爵西徳二郎

大不列顛特命全權公使

サー・アーネスト・メーション・サトウ閣下

第九

以書翰致啟上候陳者貴國人「ウ井リア  
ム、エツチ、ギル」氏等一行カ帝國內地旅  
行ノ際巡查松本某ナル者ニ於テ右一  
行ニ對シ不都合ノ舉動アリタリトノ  
義ニ關シテハ去月二十三日付送第一  
ニ號ヲ以テ一應申進置候次第有之候  
處内務大臣ハ早速靜岡縣知事ヲシテ  
右ノ事實ヲ調査セシメタリシニ「ギル」  
氏等申出ノ事實トハ多少相違ノ點モ  
有之候得共右巡查カ私服乘馬ニテ旅

券ヲ檢閲セントシタルハ全ク事實ニ  
有之右ハ警察ノ服務規程ニ違反シタ  
ル行為ニ候ヘハ同人ニ對シ相當ノ處  
分ヲ為シ尚警察官ノ内外人處遇方ニ  
付一層注意可致様各地方長官へ嚴達  
致置候旨同大臣ヨリ回答有之候間右  
様御承知相成度右御通報旁本大臣ハ  
茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬  
具

明治三十一年五月二十日

外務大臣男爵西德二郎

大不列顛特命全權公使

サー・アーネスト・メーソン・サウス閣下

第十

以書翰致啟上候陳者在本邦貴國公使館ト貴國外務省トノ間ニ往復ノ公信包囊遞送方ノ儀ニ關シ本年五月二十八日附第十九號貴翰ヲ以テ御未示ノ趣致閱悉候右ハ早速其筋へ移牒致置候處何等差支無之ニ付橫濱稅關へハ右包囊ノ義無檢査ニテ遲滯ナク通關取計ツベキ様又橫濱郵便電信局へハ右包囊發著共ニ自今同局經由ヲ要セザル旨各當該官廳ヨリ夫々訓達致置

辨國州何館

候趣回答有之候間右様御承知相成度  
右回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向  
テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十一年九月三十日

外務大臣伯爵大隈重信

大不列顛特命全權公使

サー・アーネスト・メーソン・サトウ閣下

第十二

以書翰致啟上候陳者神戸居住貴國人  
エフ・ペリン・カーパー氏所有遊船イヨ  
號ニ對シ神戸下ノ關間巡航寄港ノ許  
可ヲ得ラレ度者去月ニ十五日付第三  
十九號貴翰ヲ以テ御來示ノ趣致閱悉  
候右ハ其筋ニ於テ差支無之趣ニ付本  
月五日ヨリ向フ六ヶ月間有效ノ前記  
西港沿岸ニ於ケル諸港(吳軍港北口・早  
瀬瀬渡兩瀬戸ノ通航ヲ除ク)へ寄港許  
可証狀壹通茲ニ封入差進候間御落手

\*穩

佐國大港館

相成度尤モ別紙寄港許可証狀裏面ニ  
記載スル所ノ條件ハ必ス遵守可致様  
右クーパー氏へ御傳達相成度右御回  
答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬  
意ヲ表シ候敬具

明治三十一年十月四日

外務大臣伯爵大隈重信

大不列顛特命全權公使

サー、アーネスト・メーソン・サトウ閣下

第三

以書翰致啟上候陳者明治三十年法律  
第十四號關稅定率法並貴我協定稅率  
實施ノ義ニ關シテハ去月十日附書翰  
ヲ以テ申進置候處右定率法並協定稅  
率施行期日前ニ輸入港ニ到着シ施行  
期日後ニ輸入手數ヲ完了スル貨物ハ  
保稅倉庫ニ庫入シタルト否トヲ問ハ  
ズ同法施行期日前ニ稅關ニ於テ其輸  
入申告書ヲ受理シタルモノニ限り舊  
稅率ヲ適用スヘキ旨同月二十日大藏



大臣ヨリ各稅關ニ相違置候趣ニ有之  
候間為念及御通知候本大臣ハ茲ニ重  
テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具  
明治三十一年十月二十九日

外務大臣伯爵大隈重信

大不列顛特命全權公使

サー・アーネスト・メーソン・サトウ閣下

第十三

以書翰致啟上候陳者昨三十年勅令第  
三百八十五號規定ノ製産原地証明書  
ノ義ニ關シ本月十七日附第五十號貴  
翰ヲ以テ御尋越ノ趣了承右勅令中ニ  
當該官廳トアルハ其物品積出地ノ地  
方廳即チ州縣郡區町村各廳ノ如キ官  
廳ヲ指稱シタルモノニシテ商業會議  
所ハ之ニ含有セサル義ニ有之候得共  
貴國市長ノ如キハ該勅令ノ當該官廳  
ノ部内ニ屬スルモノトシテ取扱差支

英 國 領 事 館  
英 國 領 事 館  
英 國 領 事 館

無之ニ付帝國領事館、アラサル地ニ  
於テ市長ノ為シタル証明ハ帝國稅關  
ニ於テ有効ト認ムヘキ義ニ有之候尤  
モ商業會議所、証明ニ關シテハ帝國  
領事館ノ存在セサル場合ニ限リ有効  
ナラシムル様追テ詮議スルコトニ相  
成居候間右様御了知相成度右回答旁  
本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ  
表シ候敬具

明治三十一年十一月二十九日

外務大臣子爵青木周藏

大不列顛特命全權公使

サー、アーネスト・モーション・サトウ閣下

英 國 大 使 官

第十四

以書翰致啟上候陳者臺灣地方ヨリ直  
 接又ハ間接ニ來ル船舶ニ對シ檢疫實  
 施ノ儀本年二月十日附并同年六月十  
 七日附ヲ以テ前任西男爵ヨリ御通知  
 致居候處同地方ニ於ケルハト追々  
 消滅候ニ付本月三十日限右檢疫停止  
 ノ義本日ノ官報ヲ以テ内務大臣ヨリ  
 告示相成候右ハ閣下ニ於テ已ニ御承  
 知相成候事トハ存候得共為念茲ニ及  
 御通知候本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向

テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十一年十一月三十日

外務大臣子爵青木周藏

大不列顛特命全權公使

サ、アーネスト・メイソン・サトウ閣下

第十五

以書翰致啟上候陳者昨年十二月十九日附第五十七號貴翰ヲ以テケルプロコニ一農務省ニ於テ帝國ノ漁業ニ關シ實地或ハ學理上ノ事ニ係ル出版物ヲ得ラレ度趣並ニ漁業ノ狀況及之カ監督ニ關シ相互ノ意見及報告ヲ交換被致度且又帝國ニ於テ禁漁季節魚類寸尺制限網目ノ大サ等ニ關シ現ニ施行相成居候規則又ハ條例等ノ如何ヲ承知セラレ度趣及ケルプロコニ一ニ

於ケル棲海生物學年報千八百九十七  
年分二部帝國政府へ寄贈セラレ候趣  
御申越相成了承致候右ハ帝國政府ニ  
於テモ頗ル有益ノ舉ト認メ候ニ付御  
來意ニ應ズベク候尤モ帝國漁業ニ關  
スル法令ハ早晚制定可相成筈ニ候得  
共目下ノ處各地方適宜ニ取締規則ヲ  
設クルコトニ相成居帝國一般ニ通ズ  
ルモノハ無之候間別冊最近三々年分  
水産調査報告書ノミ九冊ケルプロ  
口

ニ一農務省へ寄贈致度候ニ付御查收  
ノ上同省へ轉送方可然御取計相成度  
右回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向  
テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十二年一月三十一日

外務大臣子爵青木周藏

大不列顛特命全權公使

サー、アーネスト、メーソン、サトウ閣下

第十六

以書翰致啟上候陳者輸入稅賦課ノ件  
 ニ關シ在橫濱「工ルン」商會ヨリ提出  
 シタル訴願書類等大藏大臣へ轉送ノ  
 儀ニ付去月二十一日附第八號貴東ヲ  
 以テ御來示ノ趣致閱悉候右ハ早速同  
 大臣へ及回送置候處現行條約ノ下ニ  
 於テ稅關規則第四十三條ノ規定ノ如  
 キハ外國人ニ對シ適用スヘキモノニ  
 無之ニ付訴願トシテハ受理難致候得  
 共之ヲ課稅上不服ノ申立トシテ御送

付ノ見本ニ就キ調査シタルニ今回「ル  
ンス商會ノ輸入シタル織物ハ横濱税  
關ニ於テ類別シタルカ如ク繻子織即  
チ「イタリアン」クロースニアラスシテ  
綾織ナルコトハ別紙記述ノ通ニ有之  
候旨同大臣ヨリ回答有之候間右様御  
了知相成度將又御送付ノ見本等ハ茲  
ニ及御返戻候間御查收相成度候右御  
回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ  
敬意ヲ表シ候敬具

明治三十二年五月三日

外務大臣子爵青木周藏

大不列顛特命全權公使

サー、アーネスト、メーソン、サトウ閣下

第十七

以書翰致啟上候陳者貴我新條約實施以後貴國人カ本邦ニ於テ新聞發行業及其他ノ營業ヲナスコトニ關スル取扱手續ノ義ニ付テハ本月十九日附ヲ以テ回答致置候處今又内務大臣ヨリ誼新聞紙発行ニ關スル取扱手續中第七項ノ意義ハ日刊新聞ヲ集録スルモ同一新聞題號ノ下ニ附録或ハ號外ノ名義ニテ発行スルモハ差支ナキ義ニシテ單獨ニ別種ノ題號ヲ用ヒテ



行スルモノニ限リ届出ヲ要スル次第  
ニ有之候旨追報致来候間右為念御通  
報致度本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ  
敬意ヲ表シ候敬具

明治三十二年六月三十日

外務大臣子爵青木周藏

大不列顛特命全權公使

サー、アーネスト、メーソン、サトウ閣下

第十八

以書翰致啟上候陳者外國人ニ屬スル  
不動産上ノ物權登記ノ義ニ關シ去ル  
五月一日附私信ヲ以テ覺書相添御来  
示ノ義モ有之候處右ニ關スル勅令ノ  
制定ニ付テハ目下取調中ニ有之詳細  
ノ事項ハ未タ決定不致候得共各領事  
館ニ於テ為シタル不動産登記ノ原本  
又ハ公正ナル謄本ヲ日本國當該官ニ  
引継クコトハ其登記ノ効力ヲ存續セ  
シムル為メ必要ナル義ト思考致候就

テハ改正條約施行ノ期日モ最早切迫  
致居候義ニ付右登記ノ原本又ハ謄本  
引継ノ義豫ノ準備相成置候様貴國各  
領事へ御訓示<sup>置</sup>相成候様致希望候本大  
臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ  
候敬具

明治三十二年七月五日外務大臣子爵青木周藏

大不列顛特命全權公使

サー、アーネスト、メーソン、サトウ閣下

第十九

以書翰致啟上候陳者海軍中佐森義太  
郎義兼テ清國出張中ノ處今般軍事實  
況視察ノ為メ威海衛へ罷越可申苦ニ  
付同地着ノ上ハ相當ノ便宜ヲ與ヘラ  
レ候様閣下ヨリ其筋へ可然御申報ア  
ラシテ本大臣ノ切ニ希望スル所ニ有  
之候右御依頼旁本大臣ハ茲ニ重テ閣  
下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十二年八月三十一日

外務大臣子爵青木周藏

大不列顛特命全權公使

サーアーネスト・モーソン・サトウ閣下

第二十

以書翰致啟上候陳者臺灣島打狗ニ於  
ケル貴國領事館壹部改築用ノ為在上  
海貴國土木監督官ノ同島へ輸入スル  
建築材料ニ對スル輸入税免除ノ義ニ  
關シ客月二十二日附貴翰ヲ以テ御申  
越ノ趣致敬承候右ハ其筋へ及照會置  
候處輸入税免除ノ義ハ規則ノ許サバ  
ルノミナラス内地ニ於テモ免除ノ例  
無之ニ付乍遺憾貴意ニ應シ難キ旨回  
答有之候間左様其向へ御通達相成度

右田答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向  
テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十三年二月二十三日

外務大臣子爵青木周藏

大不列顛特命全權公使

サ、アーネスト・メイソン・サトウ閣下

第三十一

以書翰致啟上候陳者神戸長崎間全航  
路ニ亘ル水先免狀ノ下附ナキニ於テ  
ハ航海ノ不便尠カラサルニ付通信  
大臣ノ考慮ヲ求メラレタキ旨去月十  
五日附貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致敬承  
候右ハ同大臣へ及照會候處帝國政府  
ハ同一人ニ對シ水先區ニ區以上ノ免  
許ヲ與ヘサル義ニハ無之候ニ付神戸  
長崎間各水先區ノ免狀ヲ受有スル者  
ハ全航路ヲ通シ水路嚮導ヲ爲シ得ヘ

キ筈ニ有之該航路中各水先區以外ノ  
海上ハ危險ノ程度免許ノ必要ナキモ  
ノト認メ特ニ免狀ヲ下付セサル義ニ  
有之候旨回答致來候間此段御回答旁  
本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ  
表シ候敬具

明治三十三年三月六日

外務大臣子爵青木周藏

大不列顛特命全權公使

サリアーネスト、メーソン、サトウ閣下

第三

以書翰致啟上候陳者目下橫濱港ニ碇  
泊ノ貴國軍艦「バール」號、損傷  
部修繕中防波堤内ニ碇泊、許可ヲ得  
タキ義貴國海軍少將「ブルース」氏ヨリ  
申出タル趣ヲ以テ右ノ許可ヲ與ヘラ  
レ度旨去月三十一日附第十三號貴翰  
ヲ以テ御申越、趣致閱悉候御來示ノ  
趣早速其筋へ申入候處前記軍艦ノ如  
キ喫水深キモ、ハ防波堤内ニ於テ其  
碇泊ニ適スル部分ハ單ニ第十二號浮

標附近ノ外他ニ無之モ同箇所ノ義ハ  
目下他ノ船舶ニ於テ使用中ニ候ヘハ  
事實上許可致兼候旨回報有之候間甚  
遺憾ノ次第ニ候得共右様御了知ノ上  
ブルース氏へ可然御傳達相成度右御  
回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ  
敬意ヲ表シ候敬具

明治三十三年四月五日 外務大臣子爵青木周藏  
大不列顛特命全權公使

サト、アーネスト、メーソン、サトウ閣下

以書翰致啟上候陳者貴國軍艦「バ」  
ル「ア」號修繕中横濱港防波堤内ニ碇  
泊ノ許可ヲ得ラレタキ件ニ付本月十  
日附貴翰ヲ以テ再應御申越ノ趣致敬  
承候右ハ早速其ノ筋へ申入候處横濱  
港ニ於テハ軍艦碇泊所ハ防波堤外第  
三區ニ限定シ修繕等ノ為軍艦ニ防波  
堤内ノ碇泊ヲ許可セシ前例無之又將  
來共許可セサル義ニ付尔遺憾貴需ニ  
應シ兼候旨更ニ回答有之候間甚遺憾

ノ次第ニ候へ共左様御了知相成度候  
右回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向  
テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十三年四月十三日

外務大臣子爵青木周藏

大不列顛特命全權公使

サー、アーネスト・メーソン・サトウ閣下

第二面

以書翰致啟上候陳者本邦汽船隆盛丸  
清國山東省東角航行中客月十四日愛  
倫灣 (Hylean Bay) 附近ニ於テ觸礁シ船  
底前部ニ少ク穴傷ヲ生シ海水浸入シ  
テ自然危険ニ陥ルノ恐アリ船員ヲ劉  
公島ニ急派シテク井ーン、ハウス海軍  
部長貴國海軍少佐ゴーント氏 (Mr. Gornet  
Commander) ニ救助ヲ請求シタルニ同十  
七日威海衛警備中ナル貴國軍艦工ル  
ドモイン號ヨリ右救助ニ要スル器具

及艦員等ヲ貴國軍艦ダフ子號ニ送り  
同艦ヲシテ遭難地ニ赴カシメ艦長以  
下懇篤ニ盡力セラレ候趣ニテ談艦ノ  
救護ニ由リ同日無事威海衛ニ廻航シ  
同港ニ於テエルドモイン號艦長ヨリ  
更ニ潜水者ヲ遣シテ船底ノ検査ヲ遂  
ケラル、等周到ナル注意ト懇篤ナル  
意思ヲ表セラレ同二十五日無事芝罘  
へ回航致候旨同船船長ヨリ届出候趣  
在芝罘帝國領事ヨリ報告有之候右救

助ニ就テハ威海衛駐在ゴーント少佐  
ヲ初メ兩艦長以下ノ盡力不尠候ニ付  
不取敢我領事ハ談船船長ヲ伴ヒ在芝  
罘貴國領事ニ謝意ヲ表シ置候趣ニ候  
へ共右ハ本大臣ニ於テモ深く感謝ス  
ル所ニ有之候間此旨閣下ヨリゴーン  
ト少佐及兩艦艦長ニ對シ帝國政府ノ  
謝辭傳達方可然御取計相成候様希望  
致候右御依頼旁本大臣ハ茲ニ重テ閣  
下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具



明治三十三年四月十八日 外務大臣子爵青木周藏

大不列顛特命全權公使

サー、アーネスト、メーソン、サトウ閣下

第三十五

以書翰致啟上候陳者烏龍茶及包種茶  
ニ關スル臺灣輸出税ノ件ニ付去ル三  
月十七日附書翰ヲ以テサー、アーネス  
ト、サトウ閣下ヨリ御來示ノ趣致敬承  
候貴國政府ニ於テハ臺灣ヨリ輸出ス  
ル茶ニ輸出税ヲ課シ神戸ヨリ輸出ス  
ル茶ニ之ヲ課セサルハ日英條約第六  
條ノ規定ト相容レストノ御意見ニ相  
見エ候處臺灣ヨリ輸出セラルル茶ハ  
其仕向先ノ英國タルト米國タルトヲ

問ハス何レモ課税セラレ神戸ヨリ輸  
出セラルル茶ハ其仕向先ノ英國タル  
ト米國タルトヲ問ハス凡テ課税セラ  
レサル義ニ有之畢竟何レノ港ニ於テ  
モ之ヨリ輸出セラルル茶ハ何レノ外  
國ヲ仕向先トスルトモ凡テ同等ノ取  
扱ニ有之候間帝國政府ハ之ヲ以テ日  
英條約第六條ノ規定ニ抵觸セリトハ  
難認候右御回答旁本大臣ハ茲ニ重テ  
貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十三年五月十七日

外務大臣子爵 青木周藏

大不列顛臨時代理公使

ジエムス・ピートン・ホワイトヘット貴下

以書翰致啟上候陳者去ル三月長崎入  
 港ノ口ビ、オ、汽船會社汽船シヤウ  
 號ニ對スル同港檢疫官吏ノ處分ニ關  
 シ去ル四月五日附書翰ヲ以テサトウ  
 公使ヨリ御申越、趣致敬承候右ニ付  
 テハ内務大臣ニ及照會候處當時最初  
 ニ該船ニ入港ヲ許可シタルハ檢疫官  
 ノ錯誤ナルヲ以テ不都合、段將來ヲ  
 訓誡シ又海港檢疫法第四條第二號又  
 ハ第三號ニ該當スル船舶ニ對シテハ

今後ハスト虎列刺、黄熱ヲ除ク外海外  
ノ港ニ於テ消毒處分ヲ受ケタルモノ  
ハ該處分ヲ了リタルトキヨリ起算シ  
痘瘡ニ在テハ十四日猩紅熱ニ在テハ  
九日ヲ經過シタルトキハ同法第六條  
第一號ノ規定ヲ準用セサルコトニ定  
メ夫レ及訓示候旨同大臣ヨリ回答有  
之候條右様御承知相成度候右御回答  
旁本大臣ハ茲ニ重テ貴下ニ向テ敬意  
ヲ表シ候敬具

明治三十三年七月五日

外務大臣子爵青木周藏

大不列顛臨時代理公使

ジエラス・ピートム、ホワイトヘッド貴下

第三十七

以書翰致啟上候陳者去月三十一日附  
 貴翰ヲ以テジエ、エフ、ジ、バーソン  
 ス氏が明治二十四年ニ帝國政府ヨリ  
 授與セラレタル甲種船長免狀ヲ明治  
 三十年逋信省令第九号海技免狀交換  
 規程ノ定ムル期間内ニ新免狀ト交換  
 方ノ申請ヲ為スコト能ハザリシ事情  
 ヲ速ベラレ此際右交換ノ儀ニ付本大  
 臣ノ斡旋ヲ得度旨御申越相成候處海  
 技免狀交換ノ手續及時期ヲ定ムルコ

トハ明治二十九年法律第六十八号船  
舶職負法第十二條ガ之ヲ逋信大臣ニ  
委任シ其ノ委任ニ依リテ海技免状交  
換規程ナルモノ制定セラレタル儀ニ  
付折角ノ御依頼ニハ候ヘ氏談規定ノ  
適用ニ關スル件ニ付本大臣干與致候  
儀ハ乍遺憾難取計候乍去直接バーソ  
ニス氏ヨリ詳細ノ事情ヲ具シ再ヒ逋  
信大臣ノ考慮ニ付スルハ別段差支モ  
有之間敷ト存候間右様同人へ御垂示

相成度此段回答旁本大臣ハ茲ニ重テ  
貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十三年九月三日

外務大臣子爵青木周藏

大不列顛臨時代理公使

ジエムス・ピートム、ホワイトヘッド貴下

第三十六

以書翰致啟上候陳者貴國新任特命全  
 權公使サ、クロード、マクドナルド氏  
 ノ家具其他ノ荷物陸揚ノタメ右荷物  
 等ヲ搭載スル貴國軍艦工ンヂミオン  
 號橫濱港防波堤内進入ノ許可ヲ得タ  
 キ旨及ヒ同公使荷物ヲ無稅無檢査ニ  
 テ通關差許サレタキ旨本月三日附貴  
 翰ヲ以テ御申越、趣致領承候右ハ早  
 速遞信省へ及照會候處從來防波堤内  
 ニハ軍艦ノ碇泊ヲ許サ、ル義ニ有之

候へ共本邦駐劄貴國公使ノ乘艦ナル  
ヲ以テ特ニ横濱港務局ヲシテ第十二  
號浮標ヲ貴國軍艦エシゲミオン號繫  
留ノ為メ用意為致置タル旨本日通信  
大臣ヨリ回答有之候尤モ荷物ノ陸揚  
終了後ハ同港務局長ノ請求次第同艦  
ヲ軍艦定繫場へ轉繫為致候様致度旨  
併セテ同大臣ヨリ申越候間右様御了  
承相成度候將タサー、クドウドマクド  
ナルド氏家具其他荷物無稅無檢査通

關ノ為メ別封當省ヨリ横濱稅關宛書  
狀封入差進候間御査収相成度候本大  
臣ハ茲ニ重テ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ  
候敬具

明治三十三年十一月六日

外務大臣加藤高明

大不列顛臨時代理公使

ジエムス、ピートム、ホワイトヘツド貴下



第三十九

以書翰致啟上候陳者去九月二十七日  
附ホワイトヘツド氏ノ覺書及ヒ之ニ  
對スル青木子爵ノ去十月四日附回答  
ノ件ニ關シ閣下ハ今日ノ現状ニ於テ  
硫酸ヲ清國ニ輸入スルコトハ許可ス  
ヘカラサルヲ帝國政府ニ披陳スヘ  
キ旨ノ訓令ヲ受領セラレタルニ付テ  
ハ帝國政府ノ當該官廳カ右硫酸輸出  
ヲ禁止スル様本大臣ニ於テ盡力可致  
旨本月十八日附第六九號貴翰ヲ以テ

御申越ノ趣致領承候

本邦ヨリ清國ニ輸出スル硫酸ノ一部  
分ハ貴翰中ニ見ヘタル在上海貴國總  
領事ノ報告ノ如ク江南機器局ニ於テ  
ル無煙火藥製造原料トシテ使用セラ  
ルルモ難計トハ存候得共此理由ヲ以  
テ同時ニ多クノ他ノ場合ニ於テ平和  
的目的ノ為メ使用セラレヘキ本件ノ  
如キ物品ニ對シ其輸出ヲ禁止スルハ  
内外貿易ノ上ニ容易ナラサル障害ヲ

與フルコトハ申ス迄モ無之現ニ本月  
二十四日在北京各國公使ヨリ清國全  
權委員ニ交付シタル連名公書ニ於テ  
モ專<sup>（エツキスクリユシラフ）</sup>ラ兵器彈藥製造ノ原料トシテ使  
用セラレルモノノミ、輸入ヲ禁止ス  
ルコトニ相成居リ即チ本件硫酸ノ如  
キ平和的目的ノ為メニモ使用セラル  
ルモノハ其輸入ヲ禁止セサル義ニ有  
之團匪ノ騷擾モ一先ツ鎮靜ニ歸シタ  
ル今日帝國政府ニ於テハ特ニ法令ヲ

發シ清國ニ向テ輸出セラルル硫酸ニ  
對シ禁令ヲ設ケルノ必要ヲ認メ不申  
候間右様御了承相成度候  
本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ  
表シ候敬具

明治三十三年十二月二十七日

外務大臣 加藤高明

大不列顛特命全權公使

サー、クロード、マクドナルド閣下

W61535

STUDENTS' COURSE

DESPATCHES

VOL. II